（様式第1号）

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票（評価対象年度：令和7年度）

施　設　の　名　称	宮城県長沼ボート場
指 定 管 理 者 の 名 称	一般社団法人　宮城県ボート協会
施 設 所 管 部 課 (室)	企画部スポーツ振興課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期　　間	管理形態	指定管理者（管理受託者）の名称	摘 要
平成27年4月 ～ 令和2年3月	指定管理者	宮城県ボート協会	
令和2年4月 ～ 令和7年3月	指定管理者	一般社団法人　宮城県ボート協会	R5.4.3法人化
令和7年4月 ～ 令和12年3月	指定管理者	一般社団法人　宮城県ボート協会	

※ 管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名　称	一般社団法人　宮城県ボート協会
	所在地	宮城県石巻市田道町1丁目6-18
指　定　期　間	令和7年4月1日 ～ 令和12年3月31日 （5か年）	
募　集　方　法	■ 公募　□ 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施　設　の　名　称	宮城県長沼ボート場	
所　在　地	宮城県登米市迫町北方字天形114-2	
設　置　年　月	平成元年10月	
根　拠　条　例　等	総合運動場条例	
設　置　目　的	スポーツの普及・振興を図り、県民の健全な心身の発達を推進し、福祉の増進に資する。	
施　設　の　内　容	敷　地　面　積	2,202.02 ㎡
	構　　造	鉄骨造平屋建
	内　　容	1）艇庫1.2・トレーニング室・会議室・更衣室 2）ボートコース　延長2000m　8レーン 【公認A級コース】 3）判定塔（鉄筋コンクリート3階建 4）危険物保管庫
開　館　（　所　）　日	4月から9月まで　休館日（月曜日）を除く毎日 10月から3月まで　休館日（月曜日・火曜日・年末年始12/28～1/7）を除く毎日	
開　館　（　所　）　時　間	会議室・トレーニング室 4月1日から9月30日まで　午前6時00分 ～ 午後8時00分 10月1日から3月31日まで　午前10時00分 ～ 午後5時00分 ボート場 4月1日から9月30日まで　午前6時00分 ～ 午後6時00分 10月1日から3月31日まで　午前10時00分 ～ 午後5時00分	
指 定 管 理 者 が 行 う 業　務　の　範　囲	1，施設の管理運営業務 2，施設の利用申請の受付・利用許可及び利用料の収受 3，施設の使用制限入場の可否等に関する業務 4，日常点検業務及び機械設備の操作業務 5，備品等及び敷地内の維持管理業務 6，その他、管理運営に関し宮城県が必要と認める業務	
利　用　料　金　制	採 用 の 有 無	■ 有　□ 無
	利 用 料 金 の 名 称	施設利用料・艇・備品等の借用料

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項　　目	事業計画	実　績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和7年度) (A)	前 年 度 (令和6年度) (B)	評価対象年度 (令和7年度) (C)		
開館(所)日数	283 日	276 日	283 日	100.0%	102.5%
延べ利用者数	10,000 人	8,976 人	9,710 人	97.1%	108.2%

※ 対象施設が複数ある場合は施設ごとに記入

(2) 延べ利用者数の内訳

項　　目	事業計画	実　績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和7年度) (A)	前 年 度 (令和6年度) (B)	評価対象年度 (令和7年度) (C)		
借艇	3,000 人	2,721 人	1,831 人	61.0%	67.3%
コース利用	6,000 人	5,805 人	6,433 人	107.2%	110.8%
審判室等	500 人	192 人	32 人	6.4%	16.7%
審判艇	200 人	127 人	609 人	304.5%	479.5%
トレーニング室	300 人	131 人	805 人	268.3%	614.5%
合　　計	10,000 人	8,976 人	9,710 人	97.1%	108.2%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入　　(単位:千円、%)

項　　目	事業計画	実　績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和7年度) (A)	前 年 度 (令和6年度) (B)	評価対象年度 (令和7年度) (C)		
県指定管理料	15,400	13,336	15,400	100.0%	115.5%
利用料金収入	1,225	1,910	1,172	95.7%	61.4%
その他	460	746	4,664	1013.9%	625.2%
収 入 計 (a)	17,085	15,992	21,236	124.3%	132.8%

(2) 支出

人件費	5,307	4,950	5,364	101.1%	108.4%
施設管理費	7,580	6,447	10,363	136.7%	160.7%
事業運営費	3,558	4,183	3,780	106.2%	90.4%
その他	640	0	883	138.0%	-
支 出 計 (b)	17,085	15,580	20,390	119.3%	130.9%

(3) 収支

収　支 (c)=(a)-(b)	0	412	846	-	205.3%
前期繰越収支差額				-	-
次期繰越収支差額				-	-

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲

5. 自主事業収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入　　(単位:千円、%)

項　　目	事業計画	実　績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和7年度) (A)	前　年　度 (令和6年度) (B)	評価対象年度 (令和7年度) (C)		
自主事業収入	30	54	444	1480.0%	822.2%
その他	0		0	-	-
	0		0	-	-
収 入 計 (a)	30	54	444	1480.0%	822.2%

(2) 支出

人件費	5,307	0	5,795	109.2%	-
事業運営費	1,179	0	15,301	1297.8%	-
販売品仕入	0	0	0	-	-
諸経費	0	0	0	-	-
支 出 計 (b)	6,486	0	21,096	325.3%	-

(3) 収支

収　支 (c)=(a)-(b)	-6,456	54	-20,652	319.9%	-38244.4%
前期繰越収支差額	413		413	100.0%	-
次期繰越収支差額	0		0	-	-

6. 評価対象年度(　　年度)の管理運営評価【指定管理者･施設所管課記入】

主な視点	項　目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】	評価	県の評価 【施設所管課記入】	評価
経済性	施設･設備の維持管理業務の実施	今まで中止が多かった大会も開催できるようになり収益が以前に近い金額で収入出来るようになってきた。 今年度から安全管理のため常時に2人体制をとる様に人員配置をした。利用者が落水や事故等の時は、救助に1人では無理があるので2人体制にした。緊急時の対応等に効果があがっている。	水上スポーツという特殊性があり、安全管理に重点をおいて2人体制にした成果は出ている。他の利用者にも声をかけ事故防止に努めているが、単独での借艇やコース利用の際は急な天候の変化や事故防止のため常に、1名が利用者を監視することが出来るようになった。また、利用者へ防水携帯電話カバーや救命胴衣を貸出し利用者の安全を考慮している。	S	日常的な保守点検はもとより、施設･設備等の不具合の際には、県との情報共有が図られている。 修繕や設備メンテナンスなども適正に行っているほか、今年度から常時2人体制とすることで、安全かつ安定した施設運営が図られている。	A
	収支実績	指定管理予算だけではなく、利用実績の向上や宮城県ボート協会備品の貸与等も行い収益面の向上を図っている。	昨年度開催した、マスターズへ出場した個人等の利用が増えている。	S	物価高騰等により支出増加があったが、利用者増加の取組や、備品貸出等による収益増加に向けた工夫などにより、黒字となっている。	A
効率性	管理運営体制	常に日常点検･場内巡視等は、職員が行っているが、夜間や休館の時は、有資格者がいる業者に警備･点検業務等を委託しているまた、コースブイの設置･撤去についても委託業務に外注している。 建築物の定期検査は、予算も確保され毎年行っている。	学校の部活等でもボート場を利用しているので減免を行い、中学校･高校等の活動や大会だけでなく記録会や強化練習に協力している。	A	適切な人員配置を行い、利用者の安全面に配慮した管理運営体制が図られている。	A
	人員体制	正規　2 人　非正規　3 人				
	運営業務(ソフト事業等)の実施	長沼ボート場で開催されるボート大会には全面的に協力をしている。 利用料徴収は、団体によっては減免等も行っている。 大会や事業の際は今もなお、感染防止対策を行い衛生面も考慮している。	学校の部活等でもボート場を利用しているので減免を行い、中学校･高校等の活動や大会だけでなく記録会や強化練習に協力している。	S	大会開催時には、大会運営や施設管理について協会員がボランティアとして補佐し、施設利用者のサービス充実に努めた。 一方、利用料の減免の取扱いについて、一部誤りがあることから改善を要する。	B
有効性	利用実績	屋外スポーツであるために天候に左右される。ボート競技は雨天でも行うが強風と雷の時は利用できない。現在の競技艇はカーボン繊維を多く利用しているため落雷や突風の危険性が高い。雷鳴が聞こえた場合には練習及び大会は休止又は中断している。	利用者に高校生や中学生が多く、利用者の安全性を強く重視している。 荒天時には、トレーニングルームを活用しエルゴメータやワットバイクを使って練習を行っている。	A	事業計画には及ばなかったものの、前年度実績を上回る利用者数となった。また、登米市と連携してイベントを開催するなど、積極的な情報発信を行っている。	A
	利用者サービスの向上	施設の利便性を図るために、早朝練習や合宿時の練習のスケジュールに合わせ開館時間をフレックスに対応している。 特に大会時等は、前日や早朝から準備が必要なことから利用時間の融通を図っている。	月に1度、B＆G海洋センター及び長沼物産協会と3者会議を開催し、近隣施設と情報交換を行い利用者の獲得を行っている。 その他にも、登米市との連携を行い、市の事業やイベントでの長沼ボート場の利用を推進している。	S	利用者と積極的にコミュニケーションを図ることでニーズ把握に努めている。 また、利用者の安全を優先し、利用中止を的確に判断するなど、利用者の目線に立った運営ができている。	S
	利用者の苦情、要望等の把握とその反映	利用者満足度アンケートを行い、サービスの向上を図っている。 利用者数の向上を図るために、一般や大学へ合宿や水辺体験の呼びかけを行いボート場の利用を推進している。 今のところ、利用者からの苦情はない。ただ、漁業協同組合から嫌がらせの様なクレームが来る	利用者満足度アンケートの集計と利用者の意見を尊重し、使いやすいボート場を目指している。 部活動での利用についても顧問の先生と密に連絡を取りながら施設利用の利便性を図っている。長沼漁協については、連絡を取り その都度内容に合わせた対応を出来る限り行っている。	A	利用者アンケートに加え、窓口で利用者の意見要望を聞く体制を整えている。対応可能な要望については迅速に対応し、利用者サービス及び利用者満足度の向上を図っている。	A
その他	県民の平等利用	ボート場は、ボート競技だけでなく消防団の演習や市民が参加する花火大会、マラソンやグラウンドゴルフの大会に施設を供与している。 春には、桜の花見で賑わうため駐車スペースやトイレの供与も行っている。	ボートコース内の安全管理において場内の定期巡視やモーターボートによるコース内巡視、利用中の沈や緊急時には、救助艇を速やかに出艇できるように準備している。 地元の長沼漁協と水域の利用に関し協定を結びトラブルが無いようにしている。	S	ボート大会のほか、地元イベントにも積極的に協力し、地域に親しまれる施設運営に努めている。また、大規模大会を誘致するなど、幅広い利用者の増加に努めている。	A
	安全対策	職員の増員を行ったほか、部活動時の生徒等の動向を監視し、また顧問の先生と意見交換を行い安全な施設利用を図っている。 また、常に天気予報をチェックし、ボート競技の性質上、強風や落雷の危険がある時は施設内放送を利用し速やかに退避を呼び掛けている。大会等の時は、ボート場内に救護所を設け体調不良やケガ等に対応出来る様にしている。	ボートコース内の安全管理において場内の定期巡視やモーターボートによるコース内巡視、利用中の沈や緊急時には、救助艇を速やかに出艇できるように準備している。最近は異常気象による突風や雷増えているのに対し迅速に周知･行動が出来るようにしている。 大きな大会時には、医師や看護師を配置し、応急処置等を迅速に取れるようにしている。	S	コース利用中における沼水面の巡回、救助艇の待機など、安全性を確保するとともに、気象条件にも注意し、関係機関との連携を密にしながら事故防止に努めている。	S

主な視点	項　　目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】	評価	県の評価 【施設所管課記入】	評価
その他	個人情報の保護	個人情報の保護は、個人情報保護法に法り職員に十分周知、且つ宮城県の個人情報保護ガイドラインに従い対処して行っている。	個人情報が記載された書類の保管は書庫に入れ施錠、廃棄する場合もシュレッダーにかけ処分をしている。	S	個人情報保護規程を整備し、個人情報保護に努めている。	A
	自主事業の実施	自主事業としては県ボート協会や地元のとめ漕艇協会及びB&G海洋センターと合同でイベントや水辺体験教室を開催している。	大会や教室のほかに、県ボート協会の備品（テントや無線機・プレハブ）を大会や記録会に安価で貸出、好評を得ている。	S	備品貸出等による収入増により黒字となっており、利用者のニーズに応じた事業展開ができている。	A
	その他の取組	来年度は東北選手権が開催される。協会員全員で無事に開催できることを目指して支援・協力をして参ります。	ボート場は、漕艇関係の個人・団体だけでなくいろいろな団体がボート以外でもボート場を利用しています。それらの団体が気持ちよくまたトラブルが無いように利用調整を行っています。 県ボート協会のHPをリニューアルし利用予約やリアルタイムでの大会速報の等を計画している	A	施設管理に係る人員体制の強化や、HPリニューアルを含む情報発信の強化など、利用者の目線に立った運営や利用者獲得に向けた取組を積極的に行っている。	A
総　合　評　価			令和6年度には全日本マスターズレガッタが長沼ボート場で開催され、全国から多くのボート愛好家が集まり競技と交流を深めました。それに伴い大会参加者や個人の利用者が増えている	S	東北地方のボート競技拠点施設の管理者として、施設の利用促進、競技者の育成、大会誘致にも力を入れており、適正な管理運営を行っている。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準（目安）】

評　価	評　価　の　考　え　方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準（目安）】

評　価	評　価　の　考　え　方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項　　目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	施設と艇老朽化が目立って来ている。 長期修繕計画や改修計画を要望しながら修繕や改修・備品整備を計画的施行を望みます。 今後は、スポーツ振興課と萬光な協議を行いながら物価上昇の折、料金改定も含め検討して行きたい。	備品貸出等による収入増や積極的な情報発信等による利用者増を図っているものの、価格高騰の影響や設備の老朽化といった課題があり、施設管理費が増大している。 収入の増加に向けて令和8年4月より利用料金の改定を行っているが、指定管理者と連携して、適切な施設運営を行っていきたい。